

法人東京電機大学校友会 千葉県支部だより

第14号

平成23年5月1日

校友会事務局

東京都千代田区

神田錦町2-5-1

TEL 03-5289-3512

FAX 03-5280-3562

支部だより第14号発行にあたり

支部長代行 松本 宏

この度の東北地方太平洋沖地震により我が国は未曾有の災害に見舞われました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今回「千葉県支部だより第14号」を発行する運びとなりました。これも、関係各位及び諸先輩方の理解・ご協力として、指導の賜物であります。改めて厚く御礼申し上げます。尚、前回の支部総会で支部長を花井卓郎氏にご承認頂きましたが、昨年12月9日の役員会で、突然一身上の理由で支部長を辞任されました。その役員会で花井支部長の残任期間中は、前支部長の私が支部長を代行する事に決議されました。以後よろしくお願いいたします。

さて、暦を紐解きますと、今年の干支は十二支の第四番目の辛卯(かのと)です。「こひねの上り坂」の諺でもあるように何事も良い方向に速やかに進むと言われています。我が母校も過日、「創立百周年」を終え「次の百年に向けたブランドデザイン」を策定し、その具現化である、「東京千住キャンパス建設」に着工しております。その完成を「我々の誇り」として応援して行きたいと思っております。尚、今回の「支部だより」には加藤学園理事長様、石塚校友会理事長様、と山浦経営企画室長様に寄稿をお願いしました。更に、新しい会員の方々からも、多数の投稿を頂きました。

今年の「千葉県支部総会」は第41回を迎えます。今後の支部方針として1. 支部役員

充実(特に若手役員登用) 2. 支部会員の増加 3. 三天支部(埼玉・神奈川・千葉)連絡協議会の継続です。(第3回目の連絡協議会では、各支部の特徴を生かした発表があり、充実した会となりました。)

4. 東京千住キャンパス創設事業への協力であります。次に昨年度の見学会は2月25日(金)、財電力中央研究所で、地球温暖化研究(100年後の予測)及び雪害観測などの研究を見学しました。お蔭様で支部発足以来、最も多い39名の参加で、懇親会も時間を延長しての盛り上がりでした。次に支部総会時の「公開講演会」をご案内します。6月11日(土)17時より「千葉ニュータウンキャンパス」にて実施します。演題は「色彩の効果で健康増進」と題して情報環境学部准教授の今野 紀子先生にお願い致しました。是非大勢のご参加を希望します。千葉県支部は、今後共、会員各位の「意見を基に」支部役員が一致協力して、全国支部の中でも、最も充実して活気のある、そして、楽しめる支部になるよう、一層努力して参る所存であります。今後共、会員並びに関係各位のご指導・ご協力を切にお願い申し上げます。終わりにあたり千葉県支部関係各位の「健勝・ご多幸」を祈念申し上げ、支部だより第14号発行にあたっての挨拶に代えさせていただきます。

ご挨拶

学校法人東京電機大学 理事長 加藤 康太郎
校友会千葉県支部の皆様におかれましては、

松本支部長代行のもと、日頃から講演会や見学会をとおして、会員相互の親睦と研鑽に励まれますとともに、本学園の発展にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本学は平成19年に学園創立100周年を終え、次の100年に向けた新たな大学のビジョンとしての「東京電機大学ブランドデザイン」を策定し、またその具現化を目指し、東京千住キャンパスの創設等、大きな転換期の只中にあります。これまでの本学の歴史と伝統を糧とし、新しい発想で大学を革新していかなければ将来の発展は望めない、大変厳しい局面を迎えております。

その意味でも、卒業生と母校の連携は不可欠でありますので、千葉県支部の皆様には、引き続き、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。改めてお願いする次第であります。

皆様すでにご承知のとおり、本学では、平成24年4月の開設を目指し、足立区北千住の地に、新たな教育・研究の拠点として東京千住キャンパスを創設することを決定し、現在全学を挙げてその諸準備を進めております。昨年2月に着工し、1年余りが経ちますが、現時点まで事故や災害等もなく、建設工事も順調に進捗しております。具体的な内容につきましては、工学情報、本学ホームページでの情報公開等を含めて順次お知らせしていきますので、ご覧いただければと存じます。

少子化の影響で、入試については志願者集めに苦慮しておりますが、新キャンパス開設の移転広報の成果、また不況による理工系回帰現象もあつてか、3年連続で大幅な志願者増を達成いたしました。

また、就職につきましては、依然厳しい状況が続いており、本学においても苦戦を強いられておりますが、「就職に強い大学」のブランドを死守すべく、全学挙げて就職支援策の強化に取り組んでおります。厳しい中でも何

とか前年並みの内定率を維持しておりますが、こと就職に関しましては、とりわけ卒業生の皆様のお力添えが不可欠でありますので、何卒ご支援、ご協力を重ねてお願いいたします。100周年記念事業・東京千住キャンパス創設事業募金につきましては、千葉県支部の皆様をはじめ、多くの方々から厚志を頂戴いたしました。おかげさまで、現在約11.5億円に達しております。厚く御礼申し上げます。今後、今後の100年に向けた本学発展への貴重な原資となる旨(理解)いただき、今後も引き続き、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、千葉県支部と会員皆様の益々の発展とご健勝を心より祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

東京千住キャンパスの建設進捗状況

経営企画室

昨年2月9日に起工式が行われ、本体工事



本年12月には建物が完成する予定です

に着工した東京千住キャンパスは、東北地方太平洋沖地震による建物損傷及び人的被害等もなく、2012年4月開設に向け進捗しています。また、昨年9月7日に東京千住キャンパスの建物の正式名称が1号館(W棟)、2号館(N棟)、3号館(E棟)、4号館(S棟)に決定しました。※()内はこれまでの仮称です。なお、東京電機大学校友会のホームページ (<http://www.tdu.ac.jp/>) で東京千住キャンパスの建設工事のライブ映像(定点カメラ3箇所設置)を公開していますので、ぜひご覧下さい。

さて、現在は、各棟の主体構造となる鉄骨工事がほぼ完了し、内外装・設備工事を進めています。各建物の進捗状況は、次の通りです。
1号館(W棟)：高層部の第6節(最上部)の鉄骨工事を完了し、低層部より内外装・設備工事を進めており、交通広場に面する大階段の基礎及び躯体工事を開始しています。また、3月下旬に、連結式縦型蓄熱槽(直径約2.5m、高さ約10m)の5層(10缶)の設置工事を完了しました。
2号館(N棟)：高層部の第5節(最上部)の鉄骨工事を完了し、低層部より内外装・設備工事を進めています。

3号館(E棟)：厚生棟部分の内外装・設備工事を進めるとともに、学生会館部分の地上躯体工事(鉄筋コンクリート造)を進めています。学生会館部分の地上躯体工事を完了後、体育館部分の地上躯体工事を開始します。
4号館(S棟)：高層部の第5節(最上部)の鉄骨工事を完了し、低層部より内外装・設備工事を進めています。3月上旬に、連結式縦型蓄熱槽(直径約2.5m、高さ約10m)の3層(6缶)の設置が完了しました。

*詳細は「新キャンパス創設だより」でもご紹介しております。
(<http://www.nyushi-net.dendai.ac.jp/newcampus/>)

千葉県支部の「支部だより第14号」へ挨拶

東京電機大学校友会 理事長 石塚 昌昭

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、非情な自然を見せつけられ、私たち日本人にとり、生涯忘れられることのない無念な大災害となりました。被災者の皆様には、心からのお見舞いを申し上げますと共に、津波に呑みこまれたあまりにも多くの方々と遺族の皆様には、お悔やみを申し上げますが為すべがありません。

福島第一原子力発電所の放射線封じ込めは、ご挨拶文を書いている今でも、先の見えない現場での悪戦苦闘が、日々報じられている状況です。千葉県支部だよりが皆様のお手元に届く頃には、明るい兆しが見えることを祈りながら、筆を進めております。

津波災害に遭遇された市町村に在住の学園卒業生は、774名おいでです。校友会では、引き続き新聞情報との照会、支部の皆様からの情報提供を頂いて、安否の状況を調べております。さて、千葉県支部の皆様には、日頃より校友会の活動に、ご理解とご支援を頂きありがとうございます。

平成23年度は、東京千住キャンパスの完成を迎えますので、校友会としては、卒業生在校生への支援サービスについて、通年とは違う活動も必要と考えております。校友会誌としての「工学情報」の定期発行は、従来通り年4回行います。冬号は、会員でない住所判明の卒業生にも発送し、学園や校友会の情報を知ってもらい、会員拡大に結び付けていきたいと考えております。

既に校友会のホームページは、立ち上げておりますが、内容の充実を図り繰り返し閲覧してもらえよう工夫を進めてまいります。東京千住キャンパスの工事状況がリアルタイムで見られるように、ライブカメラ3台は設置

を継続しておりますし、画面には東京スカイツリーも映っております。まだご覧になられていない方は、是非アクセスしてみてください。工学情報バックナンバーも電子化されて掲載しており、先生方がどんな研究に取り組んでいるのかについても関連リンク集からリンクしております。今後は、在校生のイベントへの参加状況なども取り上げたいと考えています。

遠隔の県支部も熱心に活動しておりますが、首都圏に比べると全体の会員数も少ないのが悩みです。次年度も引き続き近県支部との「県支部連絡協議会」を拡大して、支部活動の活性化を進めていきたいと思います。

在校生への支援については、就職関連、奨学金の貸付、イベントへの補助が中心となっておりますが、平成23年度は、神田キャンパスでは最後の錦祭となりますので、大学同窓会と連携して支援をしてまいります。

課題としては、法人移行があります。昨年の校友会総会で「一般社団法人への移行決議をうけて校友会に法人移行実行委員会を立ち上げ、申請に向けての検討を進めております。学園との連携では「東京千住キャンパス創設事業」の募金協力を今後も進めてまいります。

昨年6月には、千葉県支部より学園に多額の寄付をいただきました。校友会としてもお礼を申し上げます。2月末現在で、卒業生の募金目標額4億5千万円に対し81%の達成率となりました。個人ベースの募金が伸び悩んでおりますので、一層のご協力をお願いいたします。

校友会は、皆さんのお役にたてる活動に努めてまいりますので、今後もよろしくお願いたします。

結びにあたり、校友会千葉県支部のますますの清栄と、会員の皆様のご多幸を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。



電力中央研究所我孫子地区 見学記

平成23年2月25日(金) は電力中央研究所の見学会である。朝からすくぬる良い天気。我孫子駅北口に39名の参加者全員が揃ったのは予定の時間を少しオーバーした14時7分。ほっとした時間だ。研究所のバスも、5分ほど遅れて到着。バスは、我が見学会参加者と電研通勤の方で定員ぎりぎり。6号線を少し走ると、もう、電研北門。北口バス停前には、広報スタッフの広瀬さんたちが待っていた。早速2階の会議室へ。そこで、すかさず松本支部長代行が記念品を渡し、電研側にマイクを渡す。広瀬さんから注意事項と歓迎挨拶。ここ電研は、電力の鬼と言われた松永安左衛門が設立した一つ。沖縄電力を含めて全国10電力が出資して、維持管理している。研究テーマも電力と関係ないバイオや植物育成など多岐にわたっている。東北地方太平洋沖地震で、大きな問題になっている「原子力」やガスなどの天然資源を使った発電以外に、電研は電気とも関係の無い研究までも実施しているのかと驚いた。研究は100年スパンと10年スパンとの事。凄事だね。私たちがもう存在しない未来の事まで研究しているなんて。何でも、IPCCがノーベル賞を受賞してきたのも、ここ電研の研究が貢献しているそう。電大卒業生たちよ、ノーベル賞を取りたいければ、電研職員になるのが近道だ。職員数も我孫子だけで230名だそう。ここは、地球工学・環境科学と運営センターからなっているそう。早速ビデオの説明を見、地球温暖化の10年後100年後を見る。シミュレーションは怖い結果を出している。ビデオとセンターの説明が終わると、現場見学、2班編成で実施。我が班は最初の雪害研究へ。研究開始から5回も大雪が発生していると言いつつ、ギョロッピン。障子に雪が付着し、それがど

ほとんど大きくなると全ての碍子を覆い、ショートする。特別高圧で送電しているのと、とんでもない事故が発生させる。それを防止するための研究。また裸電線のため、雪の重みで跳ねると隣の電線と絡むショートを防ぐため、星型の隔離装置まで研究していた。街中の工事屋さんが扱っている電気とは比べ物にならない大電力なので、このような大型になるのだらう。一瞬驚いた。次は、超大型計算機、地球温暖化など100年スパンの計算をいとも簡単にやっつけてける。聞いて驚いたのはメインメモリが384GB。私共が仕事等で使っているのが、良くても4Gその90倍程度。何でも1秒間に3兆回の演算処理を実行しているのだ。アンモニアや窒素酸化物の処理ではバイオリアクターなどで処理しているとの事。まさに、土ごとにも生きている野菜の心境だ。次が、遺伝子組み換え技術の研究、これはどうも、私自身がアンドロイドを作られるのではと、怖い思いをしているので、良く理解できない。でも、鉄分を多くしたレタスの栽培、付加価値を高めた組み換え技術で、世界の研究者たちが、視察に来る研究だぞうだ。そのうち、私達が食べる野菜も耕地で作るのではなく、地下工場にて栽培されるのではと感じた。さらに皆様にそっくりな方がたくさん発生してきたら、戦争も変わるかな？人生とは永久だとかなるのではないかな？最後は、排気ガスの拡散を精密な模型を使って実験し、シミュレーションを行う乱流輸送モデルリングシミュレーション装置、



東北地方太平洋沖地震で有名になってしまった福島原発の放射能の拡散についてもここで詳しく調べ、住民に伝達することで被害を少なくできるのでは、と思った。地震の後これを見ていたら、改善案も出せたかもしれないが、その時、私はどうなっていたかな。我孫子市の利根川沿いの町は液状化で道路も建物も倒壊、通行禁止になっている状況なので、電研さんしっかり研究して、早目にその実績で、新技術を世の中に提供下さいと願い、今回の見学会を終了した。

帰りの電研バス、私共だけだったので、ゆったり乗車で16:30に出発し、我孫子駅北口に16:40到着。ここで、お帰りになる参加者に向け、松本代行から、参加のお礼と支部総会への案内等が有り、懇親会場へ。さあ、田中さんの名司会で、スタートする懇親会。はな膳2階に39名の中から35名が参加。松本支部長代行の挨拶後、この度叙勲を受けた杉沢さんの受勲紹介が有り、そのまま懇親会の乾杯と続き、宴はスタート。今回は支部見学会、始まって以来の39名と言つ参加者を迎える事が出来、開催できたのは大変嬉しい誤算であった。次回への注文まで付いた懇親会も、喜多村先輩の中締めでお開きとなった。次回もお待ちしています。役員の皆様お疲れ様でした。また、有難うございました。(常任幹事 安藤 志朗 記)

登山と遭難事故

鈴木 修一

登山の良さとは何であるのか。努力して登った後に山頂から眺める景色、これを否定する人はいないであろう。しかし山頂で満足する人はいないであろう。その景色が得られる確率はそんなに高くはない。それでも山登りを始める人が多くなったのは、百名山ブームと言われるように、年配者に百と言つ手頃な目標を与えてくれて、それが体力の低下を防ぎ、都会では味合つことの難しい自然に接し、同時に同志も得られて、そこに生甲斐を見出せるからであろう。

しかしこれでは肝心なことが抜けているように思う。百名山ブーム以前の登山では、山へ挑むという感覚が強く、その見返りとして危険が伴つのは当然で、遭難が多発した谷川岳登山や登山団体への入会等では、親に反対される事が珍しくなかった。挑むの裏には大なり小なりの冒険的要素がある。そして冒険をする事にはそれなりの覚悟と準備が必要で、試行錯誤をしながら計画を練る。立案は後にもふれるが、非常に大切なことであり、危険な事象を経験値の中から想定しながら対応方法を考える。それでも予測外のことは必ずあつて、時にはその先の行動に対して新たな決断を迫られるような場にも出くわす。

そうしたスリルのある危険を突破出来て、技量の向上や経験の蓄積が、結果として山行終了後の充実感となつて残るばかりか、次の挑戦意欲へと発展して登山が止められなくなつてくる。この登山の冒険的要素こそが、山に惹きつけられる原動力であると思つている。今では相当の百名山が観光化されつつあるように感じる。例えば道は素晴らしく良くて案内も十分で、食事や寝具など賄い付きの小屋が完備されている。登山者も沢山いるから、途中で手頃な情報交換が出来て安全性も高まる。

観光会社に連れられた団体も多数見られる。この観光登山者達は一度行動に支障を来すと、直ちに携帯電話で救援を求める。近頃は救急車でさえ、要請の緊急性を吟味しているのに、現地ではお客様は神様の如くに、出動してくれるようである。

これは今の山登りが変わったのだと言つたようなことは済まされないだろう。救助に出動したヘリコプターが二重遭難をしたり、遭難現場で捜査当局が登山行動の正当性を検証したり、自然に対して敬虔な気持ちで臨んでいた山登りが、安易な遊興の場になっている。登山を指導する人達が、遭難時のために携帯電話が必須品だと教え込んでいるのも困つたものである。

その裏には年輩者が多く、仕方がないと言つた甘えがあるようだけれども、山では決して許される事ではない。無理をしてはいけないという鉄則を忘れてはならないのだけれども、その無理の限界が判つていないので始末が悪い。

登りたい山がある、それがどういつ山なのか、どの位の困難があるのか、体力は、技量は、経験は、時間は、自分で妥当性を判断しながら、計画を練らなければならぬ。他人が作つてくれた計画ならば、尚更同じように自分の立場で見直さなければならぬし、パーティで登るのなら、あの人がリーダーだから大丈夫ではななくて、山中ではリーダー権限が全てなのだから、そのリーダーの支持に確実に従えるのかという観点から考えなければならぬ。

しかし困つたことに、山に出かける前に地図にさえ目を通していない人が多い。山登りが本当に好きな人であつたら、自分が登つておつといる山がどういつ山なのか知らずにはいられない。地図を見ながら自分が山へ向かうとすると作戦が出来、それ故に登山終了後の評価にもつなげられる。初めに計画ありき

て、登山をする時にこの策定こそが楽しいことを知って欲しいものである。登山には冒険的な要素があるのだから、罷り間違えれば遭難することもある。遭難の事例は、道を見失う、転落や滑落ちて怪我をする、疲労や飲食物の欠乏で体力が尽きる等、枚挙に暇がないが、当事者が可能性、危険性を勘案しつつ判断したのであれば、ひとたび事が有ったら、その場を自力で脱しようとする気概と責任感はあるに生じる筈である。

山登りでは決して遭難事故を起こさないという慎重な心構えが大切であって、遭難しても事故にならないためのあらゆる方策を練っておくことが必須である。山から帰ってきて計画が当を得ていた時の快感はいつまでも心に残り、反面力の及ばない部分も判って、自ずと努力目標も定まってくる。

第40回千葉県支部総会報告

平成22年6月12日(土) 母校の千葉二ユータウンキャンパスで、第40回総会を教育棟3Fの308室で開催しました。出席者は来賓8名、校友会50名でした。

「総会に先立つ講演会は、当大学の町奸雄名誉教授により『気孔を科学する』と題して行われました。概要は次のとおり。

1. 日本は明治以来西洋医学が中心だが、完治が難しい病気が多数現れ、その診断はMRIやX線、超音波エコー機器での高価医療となり、安価で早く元の健康を取り戻す古代医療を見直した代替医療との融合が必要となった。

2. 中国の気孔を科学的にアプローチした。人間の生理学的測定による方法(心電図、血流、血圧)で、測定項目は、皮膚からの発汗、血中酸素濃度、血圧、超音波エコー、心臓と指先のパルス、サーモグラフ(体温)の変化

と血流の変化。

参考：内気孔1式のやり方 舌を上アゴにつけて、鼻で息を急速に吸い込み(2秒程度)、口からややゆっくり吐き出す(3秒程度)、息を吐き切った後に呼吸を3秒程度停止、息を繰り返す。(結果として血圧を低下させる)

参加者は63名で、御婦人を含めて4名もの質問者があり、大盛況のうちに終了しました。「次に総会を同教室で開催しました。司会から総会の成立と規約により議長は支部長が行うとの宣言がありました。支部長から、①役員の変更(若手の登用)、②本部との協調、③独自の支部便り、④三大支部長会議の活性化⑤千住募金のお祝い(これから100年のために)、⑥見学会への参加要請、⑦皆様の意見を踏まえて活性化を図る(奉仕の精神)と、挨拶がありました。

次に司会より、田窪情報環境学部長様、櫻井理事・総務部長様、石塚校友会理事長様、稲毛事務局長様、相原大学同窓会副会長様、石崎中・高同窓会長様、斎藤事務部長様、嶋田事務課長様のご来賓の紹介がありました。千住キャンパスの進行状況をDVDで見た後で、加藤学園理事長様から櫻井理事・総務部長様の代読で、次のようなお祝いの言葉をいただきました。①40回支部総会おめでとうございます。②千住キャンパスの2012年4月誕生を目指し教職員一同頑張っています。③千葉県支部のますますのご発展を祈念いたしております。

また、石塚理事長様から、①これからの100年に向け校友の皆様卒業生の就活のお手伝いをお願い、②新しい公益法人として一般社団として定款の変更が必要、③工学情報の有り方、④千住キャンパスの募金の依頼、⑤皆様のお役に立つ校友会を目指す、このお祝いの言葉をいただきました。

引き続き議事に入り、平成21年度事業報告、

決算報告、平成22年度事業計画、予算案と役員改選案の審議を行い、いずれも原案どおり承認されました。

総会の終わりに石塚理事長様と花井新支部長より前支部長の松本宏様へ感謝状と記念品を授与し、労をねぎらいました。

総会後、教育棟外階段で記念写真を撮りました。

「3」その後に懇親会場の2F学生食堂へ移動しました。初めに花井新支部長の挨拶があり、田窪学部長様の乾杯の音頭で懇親会が始まり、会場には沢山の飲、食物が用意され話も弾み、和やかに賑やかな一時を過ごし、中締めは石崎中・高同窓会長様の3本じめて終了となりました。

校友会事務局、千葉キャンパス事務部の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。(常任幹事 鈴木力 記)

平成22年秋の叙勲

この度千葉県支部相談役の杉沢順一氏が、平成22年秋の叙勲・旭日双光章の栄誉を受けられました。支部としても、心からお祝い申し上げます。ここに杉沢様本人の喜びの声を掲載します。

平成22年秋の叙勲にさいし、図らずも「旭日双光章」の拝受の栄に浴し、11月4日千葉県知事から勲記、勲章の伝達を受け、11月8日皇居に参内し、家内と共に「春秋の間」に於いて、天皇陛下に拝詔の栄誉と共に、お言葉まで賜り、感激の至りでした。

校友会の皆様方の長年のご指導、ご支援の賜と深く感謝申し上げます。

今後共「明るい」「楽しい」「心温まる」社会構築の為、一層精進し、一層芳情に報いたいと存じますので、尚一層のご指導、ご支援賜りたくお願い申し上げます。

今後の東京電機大学の益々の発展と、校友会皆様方のご多幸、ご健勝を祈念申し上げます。

◎杉澤 順一氏 プロフィール

昭和27年3月東京電機大学二期生として卒業。昭和43年4月(株)杉沢建設を設立し、ゼネコンの協力業者として活躍。昭和62年5月市川市議会議員に、平成15年4月退任。平成10年1月、平成11年4月市議会議長就任。現在 千葉県支部 相談役。

千葉県支部総会と講演会及び懇親会のご案内

◎公開講演会：無料

一般公開ですので、どなたでも聴講できます。
日 時：平成二十三年六月十一日(土) 十一：〇〇～十二：三〇 受付一〇：〇〇

会 場：東京電機大学 千葉二ユータウンキャンパス(教育棟)

演 題：「色彩の効果と健康増進」
演 講 師：東京電機大学 情報環境学部 准教授 今野 紀子先生

◎第四十一回総会 引き続き同場所で開催します。
日 時：十一月四日(土) 十三：四〇～十四：〇〇

◎懇親会 同キャンパスの学生食堂
日 時：十一月四日(土) 十五：三〇～十六：〇〇

会 費：三、〇〇〇円

*ご多忙の折とは存知しますが万障お繰り合わせの上是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

この度の大地震で被災された会員様には、お見舞い申し上げます。支部便り第14号発行にあたり、今回は投稿記事も今までにない多数で、編集するのに大変悩みました。掲載できなかった皆様、申し訳ございませんでした。次回送りにさせて頂きました。次回も嬉しい悲鳴を上げるほど記事をお寄せ下さるようお願いいたします。